

地元活性化探究プロジェクト

～Explore our local community and ourselves～

Breaking News

新型コロナウイルスで依然臨時休校が続く中、中津高校の先生方も「旭陵発地元活性化探究プロジェクト」の研修を行いました。（全員集まっただけの研修はNGであるため、書面などをもった研修となりました。今回はアンケート結果をみなさんに共有させていただきます。

⇒以下アンケート結果より抜粋となります。

質問① 担当教科と地域探究活動をリンクした際、どんな活動が想定されますか。

<英語> ・馬籠観光ボランティアへの参加 ・杉原千畝のことを深く学ぶ（英語研究 AB のテキスト活用、南小学校訪問、短歌応募 など）
・中津川のガイドブックを英語で作成し、外国人向けにガイドをする。
・中津の魅力についての PR 動画を英語で作成し、市を通して発信する。駅に QR コード入りのポスターを貼って、駅を訪れた外国人が興味を持ち、中津にまた来てくれるようにするねらい。中津在住の外国人を公民館などに招待し、食事をしたり、アクティビティを通して英語で交流する機会を与えるとともに、外国人のひとに中津高や中津についてより知ってもらえる機会を設ける。

<地歴公民> ・地元史跡等へのフィールドワーク

<国語> ・中津川宿について書かれた過去の文献の調査・紹介など
・地域のことを扱った文章を読む、島崎藤村の本を読む→馬籠で実習？
・郷土を舞台とした作品の鑑賞や研究及びその舞台の現在を訪問する
・中津川が舞台になっている文学作品、中津川にゆかりのある人物の文学作品を読む。

実に多くのアイデアをいただきました。

<家庭科> ・食文化に関わる探求。酒、発酵調味料（酒蔵）、和菓子（和菓子店）、郷土料理（食料品店、飲食店）などとの関わりを活用。
・保育・障がい者（児）教育なら、各幼保園、子育て支援センターほっとけーき、かがやきキッズクラブ、つくしんぼ…など、様々な施設とのつながりをもつことが可能。

<理科生物> ・地域の植生を知る調査観察会の実施や、地域の特性がいかされた農林水産業とのコラボを行い、その情報発信を行うなど。
・子ども科学館で科学工作教室のアシスタント。地域の子供たちの科学への興味関心を高めると共に、生徒自身も科学的思考力を高めることができるのでは。

<数学> ・現行の課程では統計学が新たに加わり、これから生きて行く中で必要なリテラシーとなっています。統計学を使えると生徒の学ぶ意欲も増すと考えられます。

<数学>・中津川駅で下車した外国人の何パーセントが中山道を歩いて馬籠に向かうか、あるいは中津川宿で宿泊するか、というデータを集める。

<体育>・高齢者とともに身体を動かし、生涯スポーツについて考える。激しいスポーツは危機管理の観点から考えにくい。

<その他>・中津川市の地形や断層について理解し、防災等に役立てる。

・英語であれば、中津川に来ている外国人にガイドとして英語で案内する。また教科横断型の活動として、家庭科と連携を取り、中津川の名産を英語で紹介する。歴史とも連携をとり、中津川の歴史を英語でプレゼンするのもよいのではないか。

質問② 部活動において地域探究活動とリンクした際、どんな活動が想定されますか。

・小学生向け野球教室

・高校生からの小中学生向け体験講座（バスケットボールに触れる）を開くなど。

・書道体験の実施

・<理科部> が地域の植生を調べ、<コンピューター部> がそれをもとに東濃東部の魅力を発信するなど。

・馬籠宿における定期的なお茶会。中津川宿でも（例えば、大鋸酒店や歴史資料館？ coagari 等で実施可能か）

・トレーニング教室の開講

・老人養護施設等での演奏会。地域で開催される音楽祭への参加。

・地域でスポーツ大会がある際、応援として参加し、演奏をする

・武道の一つである弓道の魅力を伝えるポスターを作る。

・コンピューター部であれば、中津川を舞台としたゲームの作成。また美術であれば、観光客に行ってほしい場所を絵に描いて市役所等に展示するのも一つの活動としてよいのではないか。

・びたみんたまご劇場



先生方から頂いたアンケート結果を共有しました。今回は特に二つの視点（①教科と②部活）を地域探究活動にいかに関わり付け活動していくか、ということで先生方から実に多くのアイデアを頂きました。みなさんの中で「この活動おもしろそうだ」とか「こんな活動してみたい！」と思えるような内容があったかもしれません。しかしこれは先生方が考えるほんの一例にすぎませんので、個人的に深堀したいことがあれば、**個人でテーマ設定**することも大歓迎です。先生方からのアドバイスがみなさんの活動のヒントになればと思います。

そして、みなさんの活動は、中津高校の先生方全員がサポーターとして、またフォロワーとして応援してくれるという点で一致しています。「部活動でなかなか....」と思っていた人も、先生方はみなさんにやる気さえあれば、快く活動へ送り出してくださるという点でも了承を得ています。さあ、探究しよう！